

## 多自然川づくり取り組み事例

タイトル：仙台市における多自然川づくり事例	
水系/河川名：名取川水系/大柴沢、瀬沢川	河川規模：中小河川
事業：災害復旧	事業開始年度 平成26年度
目標設定：定性的	段階：D(実施・施工時)
課題・目的(主な)：瀬・淵の保全・再生・創出	
工法(主な)：掘削(河床)、護岸整備	
配慮事項(主な)：	

### 背景・課題、目標設定

#### 大柴沢：

＜背景＞大柴沢は大部分が急峻な山地流域のため、一旦大雨が降ると断面の狭小な箇所や水衝部において河川災害が発生している。今回、度重なる出水により法面浸食が進行し天然河岸が崩落した箇所において、復旧工事のための護岸詳細設計を行った。

＜目標＞線形については、直線区間を少なくし、なるべく現況に合わせた曲線とする。護岸形式は、周辺環境や景観との調和を図った形式とする。

#### 瀬沢川：

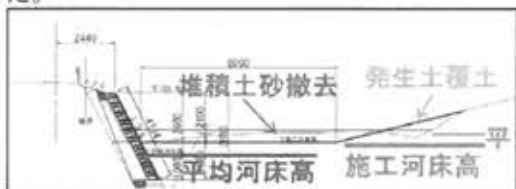
＜背景＞瀬沢川下流部については未改修であり、また流路形態も蛇行している。今回、平成25年9月の台風18号により土羽護岸が崩落したため復旧工事(単費)を行った。また、維持管理のための堆積土砂撤去を行った。

＜目標＞護岸形式は、自然環境に配慮するとともに工期の短縮やコストの縮減も図る。堆積土砂撤去は、「寄州」「早瀬」が発生し、自然な変化を持つ河岸・水際の形成を目指す。

### 取り組み内容・対策例

大柴沢：護岸形式は植生が期待できる空積みとし、比較検討の結果、アンカー式ブロック空積み工法である「ラップブロック工法(KT-020077-V)」(明度5)を採用した。

瀬沢川：護岸形式は契約後にNETIS施工者希望型により、連結空積みブロック工法「ふる里(HR-020013-V)」を採用した。



・堆積土砂撤去は、当初は平均河床高まで約1mの掘削深(縦断勾配1/50)だったが、環境への影響を考慮し掘削深は現況河床高程度(平均掘削深50cm)(縦断勾配1/23~1/57)とした。

・また、左岸側の掘削土は右岸側の洗掘箇所に覆土し、有効利用を図った。(掘削99m<sup>3</sup>、発生土覆土88m<sup>3</sup>)

### モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

#### 瀬沢川：

堆積土砂撤去後、2度の大雨(80mm/日、100mm/日)により中規模な出水を経験した。

その結果、「寄州」「早瀬」が発生し、自然な変化を持つ河岸・水際が形成されつつある。

(H  
26  
・  
7  
・  
22)



(H  
26  
・  
10  
・  
2)



(H  
26  
・  
10  
・  
16)

台風  
19  
号  
出  
水  
後

問い合わせ先 仙台市建設局百年の杜推進部河川課

電話番号 022-214-8837